

今日のトピック ECBの金融政策（2016年9月）

金融政策は据え置き、年内にも追加緩和発表か

ポイント1

金融政策は現状維持

政策金利、量的緩和ともに据え置き

■ 欧州中央銀行（ECB）は8日の理事会で、政策金利、預金金利（金融機関がECBに余剰資金を預け入れた際に適用する金利）を、それぞれ0.00%、▲0.40%に据え置き、量的緩和の規模を維持することを決定しました。

ポイント2

経済見通しを下方修正

物価上昇は今後加速する見込み

- ECBは8日に公表した経済予測で、実質GDP成長率を2017年+1.6%、2018年+1.6%とともに前回6月時点から小幅に下方修正しました。前回会合の後、英国が欧州連合（EU）離脱を選択した影響などが考慮された結果と見られます。
- 8月のユーロ圏の消費者物価指数（速報値）は、前年同月比+0.2%と、小幅ながら3カ月連続でプラスとなりました。当面は低水準が続くと見られますが、ECBの経済予測では、2017年+1.2%、2018年+1.6%と上昇ペースが加速すると見込まれています。

【政策金利、ドイツ国債利回り、ユーロ円】



(注) データは2014年1月1日～2016年9月8日。
政策金利はMain Refinancing Operations 金利。
預金金利はDeposit Facility 金利（翌日物）。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【ECB資産残高、消費者物価上昇率】



(注) ECB資産残高は、2010年12月31日～2017年3月31日（週次、2016年9月9日以降は、月800億ユーロの資産購入を前提に計算）。
消費者物価上昇率は、2010年12月～2016年8月（月次）。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開

年内にも追加緩和策の発表の見込み

- 経済見通しは若干下方修正されましたが、金融緩和や金融環境の好転、企業収益の改善、低インフレによる実質所得や個人消費の増加などによって内需が下支えされると考えられ、今後とも景気は緩やかながら着実に拡大が続くと考えられます。
- 今回の声明文では、資産買取計画の円滑化、再設計について担当委員会に付託したとの文言が入りました。このことから年内にも、来年3月で終了が公約されている量的金融緩和策を延長する追加緩和策が発表されると見込まれます。

**ここも
チェック!**

2016年8月26日 健全化が進む「ユーロ圏の財政」（欧州）

2016年8月16日 ユーロ圏のGDP成長率（2016年4-6月期） 国別ではドイツ、スペインが成長持続

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。